

# 『拠出金』による現役世代の負担増

皆さんが毎月支払っている「健康保険料」は、主に医療費の支払い、健診などの保健事業費用のほかに、全国の高齢者の医療費を支えるためのお金『拠出金\*』として使用されています。拠出金の額は年々増加し、今では健保組合全体の保険料収入の約5割を占めるなど、皆さんの保険料が増加する大きな要因となっています。

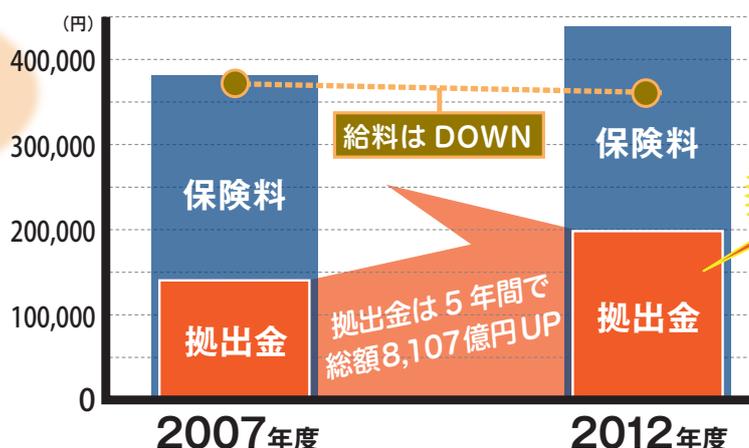
\*主に75歳以上の医療費を支えるための「後期高齢者支援金」、65歳から74歳の医療費を支えるための「前期高齢者納付金」などがあります。

健保組合は、皆さんと事業主が納める健康保険料を財源に運営されています。

しかし、

**拠出金が増えたことで全健保組合の健康保険料の平均額が上昇!**  
この5年間で1人当たり年額5万円以上負担が増えています!

給料はあがらないのに  
拠出金負担はどんどん増える。  
もう、限界だ…



高齢化が進んだことや医療技術の発達によって、高齢者の医療費は国民全体の医療費の約6割を占め、現役世代が負担する『拠出金』の額も急激に増えています。その結果、多くの健保組合が巨額の拠出金を支払うために健康保険料をあげざるを得ない状況におちいり、皆さんや事業主の負担の増加に繋がっています。

高齢者や子供の社会保障を支えていくのは、現役世代の務めです。  
しかし、支え手である現役世代の負担はすでに限界に達しています。

健保組合・健保連は、

- 高齢者と現役世代の負担バランスの公平性を確保し、持続性のある制度の構築を求めています。